



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 42 No. 3
June 2017**

毒理学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ	
専門部会「生体金属部会」の設立について	27
第20回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	29
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	31
認定試験受験資格のための評点表	33
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報）	35
第20回日本毒性学会基礎教育講習会日程	39
第44回日本毒性学会学術年会のご案内（第6報）	40
社員総会開催のご案内と電磁的総会出欠（委任状）回答システムへのご登録のお願い	43
合同セッションのご案内（第44回学術年会・本部企画）	44
その他のお知らせ	
第39回日本中毒学会総会・学術集会	45
第29回不斉に関する国際会議 [29th International Symposium on Chirality (Chirality 2017; ISCD-29)]	45
フォーラム2017：衛生薬学・環境トキシコロジー	46
第24回日本免疫毒性学会学術年会	46
第27回日本医療薬学会年会	47
一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について	
一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程	
J. Toxicol. Sci. 投稿規程	
Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程	
一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程	
一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則	

日本毒性学会総務委員会からのお知らせ 「生体金属部会」の設立について

本年1月の理事会において本学会に部会を設置することが決定され、「部会制度に関する規程」が設けられました。このことは既に学会ホームページ (<http://www.jsot.jp/bukai/index.html#bukai-kitei>) でお知らせし、部会設立の申請を受け付けております。

この度、最初の部会として「生体金属部会」の設立が理事会にて承認されましたので、概要をお知らせします。

生体金属部会の概要

1. 対象となる研究分野

金属と生体との係わりに関する研究を対象とする。

2. 部会の設立趣旨

国内には金属と生体との係わりに関する研究を対象とする学会等の研究組織が多数存在する。しかし、それら組織の研究対象は細分化されており、また、相互の連携もほとんどとられていない。例えば、金属の毒性を正確に評価するためには金属の生理作用も知っておく必要があるが、毒性と生理作用の両方を研究対象に含めている組織はごく稀である。したがって、全ての生物系金属研究を包括し、関連研究者が一堂に会して議論する場が設けられれば研究者間の交流促進や効率的な情報交換が可能となり、我が国の金属研究の更なる発展に大きく貢献できると考えられる。そこで、日本最大の毒性学関連組織である日本毒性学会に専門部会の1つとして「生体金属部会」を設立し、生物系金属研究に携わる研究者の結束と研究強化を図る。(発起人代表 永沼 章)

本学会としては、生体金属部会を部会運営の最初の事例として、設立準備を通して部会制度の運用面の整備を図っていくこととなります。

部会の設立申請については随時受け付けています。なお、予算の関係から設立が認められる部会の数はごく限られたものになる予定です。専門領域を同じくする会員に於かれましては協力して申請するよう、よろしく申し上げます。

第 20 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会

教育委員会委員長

広瀬 明彦

認定試験小委員会委員長

古川 賢

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュースまたは学会ホームページに掲載の「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規程に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の10日前までに受験票をご本人宛送付いたします。試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

今回より、英語での受験を可能といたします。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. 日 時

2017年10月1日(日)(9:15~16:30予定)

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス(予定)

(東京都品川区旗の台1-5-8)

*東急池上線・大井町線

旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2017年7月3日(月)~8月14日(月)(必着)

4. 出願書類

1) 願書と受験者確認票

2) 写真 2枚(縦3.5cm×横3cm)

(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)

3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

・会員歴: 出願時にJSOTの会員であること

・研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの(書留、信書便等)でお送り下さい。

5. 受験料

30,000円(下記の郵便振替口座にお振込の上、

払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号: 00150-9-426831

加入者名: 一般社団法人日本毒性学会

※領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証にかえさせていただきます。

(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

認定試験小委員会

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム内

TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555

E-mail: jsotq@jsot.jp

第 20 回日本毒性学会 認定トキシコロジスト認定試験受験者確認票

写真貼付欄

受験番号

氏 名

(氏名をご記入下さい)

日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書

年 月 日提出

ふりがな
氏名：

会員番号：

生年月日：西暦 年 月 日（ 歳）

所属機関：

職名：

学歴：

高等学校卒業 短期大学等卒業 4年制大学等卒業 6年制大学等卒業

(該当する□にチェック)

写真貼付欄

切
り
取
り
線

卒業年	学校名および学部学科等
西暦 年 月	
西暦 年 月	
西暦 年 月	
卒業後 年 カ月	

注：大学院を含まない

毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間：

期間（西暦）	年数	職歴，大学院等
年 月～年 月	年 カ月	
年 月～年 月	年 カ月	
年 月～年 月	年 カ月	
年 月～年 月	年 カ月	
年 月～年 月	年 カ月	
通算	年 カ月	注：修学期間，就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない

*英語受験 希望する 希望しない

*受験票送付先： 所属機関 自宅

〒

住所：

電話：

FAX：

E-mail：

(お持ちの方は必ずご記入下さい)

*緊急連絡先：

認定試験受験資格のための評点表

「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」の付表（脚注に注意）を参考に自己採点の上，下表（評点表）の該当箇所に評点を記入して下さい。

なお，下表中の論文についてはそのコピーを，学会等参加については参加証のコピーを，学会等発表については学会開催年を付記した講演要旨のコピーを，また，講習会については参加証のコピーを，それぞれ証明資料として添付して下さい。

（評点表にも忘れずに氏名と所属機関をご記入下さい）

氏名：

所属機関：

種別	評点項目	評点
論文	毒性学関連論文 ^{1), 2)}	
学会活動	発表 ¹⁾	
	JSOT 学術年会	
	参加	
	発表 ¹⁾	
講習会等	毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	
	参加	
講習会等	基礎教育講習会	
	JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	
	合計	

1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については10点，それ以外の共同発表の場合は5点とする。

2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

3) IUTOX 定期総会（ICT），ASIATOX 定期総会，SOT 年会，EUROTOX 年会，日本安全性薬理研究会，日本衛生学会，日本環境変異原学会，日本産業衛生学会，日本獣医学会，日本実験動物学会，日本製薬医学会，日本先天異常学会，日本中毒学会，日本毒性病理学会，日本内分泌攪乱化学物質学会，日本免疫毒性学会，日本薬学会，日本薬物動態学会，日本薬理学会

4) JSOT 生涯教育講習会等

切り取り線

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報）

2017年の教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。

なお、学会主催講習会として、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会の二本立てとします。

「第18回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、昨年より学習フレームを、①トピックス（SOT報告）、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としてあります。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応についてメカニズムから最新の話題を含め深く学習する場としてあります。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れています。

1. 日時

2017年7月9日（日）

2. 会場

パシフィコ横浜 第3会場 501

3. プログラム

1) SOT2017 報告：Continuing Education Course の話題をもとに

1-1 Technologies and Applications of Stem Cells for Use in Toxicology

10：30～11：15

八舟 宏典先生（ボゾリサーチセンター）

1-2 Health-Based Limits for Toxicological Risk Assessment: Setting ADE for Pharmaceutical and Chemical Safety

11：15～12：00

真田 尚和先生（科研製薬）

（昼休憩 12：00～12：50）

2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー： “消化管/消化器の毒性変化を考える”

2-1 「非病理学者のための病理学講義 – 消化器（あるいは消化管）の構造と毒性変化–」

12：50～13：50

申田 昌彦先生（住友化学）

2-2 「医薬品の消化器系への副作用（臨床での有害事象）」

13：50～14：40

福井 寿朗先生

（関西医科大学・消化器内科）

（休憩 14：40～14：50）

2-3 「腸から考える健康増進と疾患」

14：50～15：40

國澤 純先生

（医薬基盤・健康・栄養研究所）

2-4 「腸管に対する外来異物の *in vitro* 評価」

15：40～16：30

薩 秀夫先生（前橋工科大学）

4. 参加申込および参加費

事前申込期間は終了いたしました。当日参加申込の場合は、当日の受付にてお申込下さい。

当日申込参加費

会員 7,000円

非会員 10,000円

認定トキシコロジスト 5,000円

5. 問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

（株）毎日学術フォーラム内

TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555

E-mail: jsotq@jsot.jp

「第20回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。集中講義によってトキシコロジー全般にわたる理解を深めたいと、10月に開催されます第20回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。3日間をかけて15名の先生方に講義していただきます(39ページ参照)。

尚、本講習会を受講されますと認定試験受験資格のための評点40点が付与されます。また、認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象にもなります。

受講を希望される方は、下記の受講申込方法でお申込み下さい。受講料入金の確認後、追って受講案内及び資料をお送りします(7月下旬頃)。

1. 日時

2017年8月7日(月)～9日(水)

2. 会場

東京大学農学部

3. 募集人数

150名(先着順)

4. テキスト

[新版]トキシコロジー(朝倉書店, 2009年刊)の内容を中心に講義を行う予定です。正誤表は学会ホームページに掲載されています。

5. 受講申込および受講料

1) 申込期間

2017年5月8日(月)～7月14日(金)

2) 申込方法

日本毒性学会ホームページよりお申込み下さい。登録後、5日以内に次項の要領で受講料を納入下さい。

3) 納入方法

Vol. 42, No. 2(4月号)に同封の郵便振替用紙、または郵便局に備え付けの振替用紙に受講者氏名、会員番号(会員の方のみ)、所属、をご記入の上、下記振替口座へお振込み下さい。

郵便振替口座番号: 00150-9-426831

加入者名: 一般社団法人日本毒性学会

ネットバンキングをご利用の方は事務局までメールで受講者氏名、会員番号(会員の方のみ)、所属、振込日、振込金額をご連絡の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行: ゆうちょ銀行

支店: 〇一九(ゼロイチキユウ)支店

口座番号: 当座 0426831

口座名義: 一般社団法人日本毒性学会

4) 受講料

一般会員	25,000円
学生会員	5,000円
非会員	30,000円
学生非会員	8,000円
認定トキシコロジスト	20,000円(2～3日受講) 10,000円(1日受講)

*交流会(1日目開催)の費用は受講料に含まれます。

*受講料はお申込みから5日以内にお振込み下さい。

*ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名(会員の方は会員番号)、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい。

*領収書は、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。学会からの領収書が必要な場合は当日振替払込請求書兼受領証と交換いたします。

*会場に余裕がある場合に限り当日参加を受け付けますが、できるだけ事前申込をお願いします。

*キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前送付前に限り、対応します。事務局から資料発送後は納入済み受講料の返金は原則としていたしませんのでご了承下さい。

5) その他

昼食は各自ご用意下さい。講義室内での飲食は可能です。

6. その他

受講修了者には受講証明書を発行します。

問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム内

TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555

E-mail: jsotq@jsot.jp

「第20回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュースまたは学会ホームページに掲載の「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規程に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の10日前までに受験票をご本人宛送付いたします。

試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

今回より、英語での受験を可能といたしますので、出願時に英語での受験希望の有無を確認いたします。

1. 日 時

2017年10月1日(日)(9:15~16:30予定)

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス
(東京都品川区旗の台1-5-8)

* 東急池上線・大井町線
旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2017年7月3日(金)~8月14日(月)(必着)

4. 出願書類

- 1) 願書と受験者確認票
- 2) 写真 2枚(縦3.5cm×横3cm)
(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)
- 3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

- ・ 会員歴：出願時にJSOTの会員であること
- ・ 研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの(書留、信書便等)でお送り下さい。

出願書類フォームは、学会ホームページおよび本誌に掲載しております。(31ページ参照)。

5. 受験料

30,000円(下記の郵便振替口座にお振込の上、
払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：一般社団法人日本毒性学会
(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局
認定試験小委員会
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル
株毎日学術フォーラム内
TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555
E-mail: jsotq@jsot.jp

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2002年、2007年、2012年に認定トキシコロジストに認定された方(認定トキシコロジストNo.1~94, 211~233, 364~397, 507~529)は2017年が資格更新の時期となります。更新手続きの詳細は、対象者宛に2017年7月頃に郵送いたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「日本毒性学会認定トキシコロジスト総会」

7月にパシフィコ横浜で開催予定の第44回日本毒性学会学術年会会期中に、認定トキシコロジストを対象とした認定トキシコロジスト総会を企画しております。総会には多くの先生方が参加されますので、今後の毒性学の方向性、研究等様々な意見交換の場として有効利用していただければと考えております。老若男女問わず認定トキシコロジストの先生方の積極的なご参加をお待ちしております。

1. 日 時

2017年7月10日(月)
18:30~20:30(18:00より受付開始)

2. 会 場

横浜ベイホテル東急(予定)
<http://ybht.co.jp/access/>

3. 式次第

- 1) 認定トキシコロジスト総会
- 2) 新規名誉トキシコロジスト表彰式
- 3) 認定トキシコロジスト懇親会

4. 会 費

認定トキシコロジスト：事前3,000円
(当日4,000円)
名誉トキシコロジスト：事前3,000円
(当日4,000円)

2017年度新規名誉トキシコロジスト：無料
(該当の方には別途ご案内させていただきます)

参加者数により、当日入場を制限させていただく場合がございます。事前申込にご協力よろしく
お願いいたします。

事前申込期間：2017年4月 3日(月)
～ 6月16日(金)

5. 申込方法

参加希望の方は日本毒性学会事務局(jsothq@jsot.jp)まで電子メールにてお申込み(お名前, 日本毒性学会会員番号, 認定トキシコロジスト総会参加旨記載)の上, 下記振込先までお振込みをお願いいたします。

Vol. 42, No. 1(2月号)に同封の郵便振替用紙をご利用いただくか, インターネットバンキング等をご利用ください。

インターネットバンキングにてお振込みの際には, 振込人名義を会員番号, フルネーム(個人名), "DJSOT ソウカイサンカヒ"と記載願います。

例：99999 ドクセイ タロウ DJSOT ソウカイサンカヒ

振込先

〈振替用紙・ゆうちょ銀行から〉

郵便振替口座 : 00150-9-426831

加入者名 : 一般社団法人日本毒性学会

〈他行から〉

銀行名 : ゆうちょ銀行

金融機関コード : 9900

店番 : 019

預金種目 : 当座

店名 : 〇一九店(ゼロイチキユウ店)

口座番号 : 0426831

第 20 回日本毒性学会基礎教育講習会日程

月 日	#	時 間	学 科 目	講 師
8月7日 (月)		9:00 - 9:10	オリエンテーション	基礎講習会小委員会 委員長
	1-1 (1:15)	9:10 - 10:25	毒性学の基本概念	和久井 信 講師 (麻布大学 獣医学部)
	1-2 (1:30)	10:35 - 12:05	毒性発現機序	吉成 浩一 講師 (静岡県立大学 薬学部)
	1-3 (2:00)	13:00 - 15:00	動態・代謝, トキシコキネティクス	橋爪 孝典 講師 (大阪大谷大学 薬学部)
	1-4 (2:00)	15:10 - 17:10	臓器毒性・毒性試験 (1) (肝毒性, 腎毒性)	藤本 和則 講師 (第一三共 安全性研究所)
			17:30 - 19:30	交流会
8月8日 (火)	2-1 (1:30)	9:00 - 10:30	臓器毒性・毒性試験 (2) (消化器毒性, 呼吸器毒性, 皮膚・粘膜毒性)	上田 誠 講師 (日本新薬 安全性・動態研究部)
	2-2 (1:05)	10:40 - 11:45	臓器毒性・毒性試験 (3) (循環器毒性)	田保 充康 講師 (中外製薬 富士御殿場研究所 安全性研究部)
	2-3 (1:05)	11:55 - 13:00	臓器毒性・毒性試験 (4) (神経行動毒性)	村上 雄一 講師 (田辺三菱製薬 安全性研究所)
	2-4 (1:20)	13:45 - 15:05	臓器毒性・毒性試験 (5) (血液・造血毒性, 免疫毒性)	向井 大輔 講師 (食品農医薬品安全性評価センター 安全性試験室)
	2-5 (1:05)	15:15 - 16:20	臓器毒性・毒性試験 (6) (内分泌毒性, 運動器毒性, 感覚器毒性)	猪又 晃 講師 (富士フイルム R&D 統括本部 医薬品・ヘルスケア研究所)
	2-6 (1:05)	16:30 - 17:35	臓器毒性・毒性試験 (7) (遺伝毒性)	濱田 修一 講師 (LSI メディエンス 創薬支援事業本部 試験研究センター)
8月9日 (水)	3-1 (1:05)	9:00 - 10:05	臓器毒性・毒性試験 (8) (発がん性)	小川 久美子 講師 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター)
	3-2 (1:05)	10:15 - 11:20	臓器毒性・毒性試験 (9) (生殖発生毒性)	千原 和弘 講師 (大日本住友製薬 前臨床研究所)
	3-3 (1:05)	11:30 - 12:35	毒性オミクス・バイオマーカー	山田 弘 講師 (医薬基盤・健康・栄養研究所)
	3-4 (1:30)	13:20 - 14:50	リスクアセスメント・マネジメント, 放射性物質, 紫外線, ナノマテリアル	小野 敦 講師 (岡山大学 医歯薬学総合研究科・薬学系)
	3-5 (1:30)	15:00 - 16:30	規制毒性試験法, 実験動物及び統計手法	田畑 肇 講師 (アステラス製薬 安全性研究所)
			16:30	受講証明書授与
資料のみ			環境毒性 (環境汚染物質)	小野 敦 講師 (岡山大学 医歯薬学総合研究科・薬学系)
			化学物質の有害作用 (1) (医薬品・化粧品, 食品・食品添加物)	橋本 清弘 講師 (武田薬品工業 リサーチ 薬剤安全性研究所)
			化学物質の有害作用 (2) (農業, 工業用化学物質, 天然毒性物質, 金属, 臨床中毒)	古川 賢 講師 (日産化学工業 生物科学研究所 安全性研究部)

第44回日本毒性学会学術年会のご案内（第6報）

（年会ホームページ：<http://jsot2017.jp/>）

1. 会期

平成29年（2017年）7月10日（月）～12日（水）

2. 会場

パシフィコ横浜 会議センター
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
TEL：045-221-2155（総合案内）
URL：<http://www.pacifico.co.jp/>

3. テーマ

トランスボーダー：学問領域の枠を超えた毒性学

4. 年会長

熊谷 嘉人（筑波大学医学医療系 環境生物学分野）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

青木 豊彦（エーザイ株）
青木 康展（国立環境研究所）
赤池 孝章（東北大学）
荒牧 弘範（第一薬科大学）
石塚真由美（北海道大学）
小椋 康光（千葉大学）
鍛冶 利幸（東京理科大学）
菅野 純（日本バイオアッセイ研究センター、
国立医薬品食品衛生研究所）
北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）
小池 英子（国立環境研究所）
古武弥一郎（広島大学）
小柳 悟（九州大学）
佐藤 雅彦（愛知学院大学）
鳥羽 陽（金沢大学）
中村 和希（北里大学）
西田 基宏（生理学研究所）
野原 恵子（国立環境研究所）
野村 護（株イナリサーチ）
姫野誠一郎（徳島文理大学）
広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）
黄 基旭（東北大学）
堀井 郁夫（ファイザー、昭和大学）
松沢 厚（東北大学）
三浦 伸彦（労働安全衛生総合研究所）
宮内 慎（持田製薬株）
務台 衛（田辺三菱製薬株）
山田 久陽（大正製薬株）
横井 毅（名古屋大学）
吉成 浩一（静岡県立大学）

6. 特別企画（予定、敬称略）

- 1) 第15回市民公開セミナー
テーマ：食と健康を科学する
日時：2017年7月9日（日）
午前10：30～12：30
場所：パシフィコ横浜 会議センター 5階「502」
- 2) 年会長招待講演
15 years of research on arsenic-induced health effects
Jin-Ho Chung
(College of Pharmacy, Seoul National University, Korea)
- 3) 特別講演
 - (1) Toxicology the essential science in risk analysis for food safety
Songsak Sriamujata
(Institute of Nutrition, Mahidol University, Thailand)
 - (2) Prenatal obesogen exposure leads to a transgenerational thrifty phenotype in mice
Bruce Blumberg
(University of California Irvine, USA)
 - (3) Integrating precision medicine approaches into toxicological assessments throughout drug development
Jon C. Cook
(Pfizer Inc, USA)
 - (4) げっ歯類による経胎盤・継世代影響の研究の成果の検証と、ヒトへの外挿の問題点の克服への提言
野村 大成
(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所／大阪大学大学院医学系研究科放射線基礎医学)
 - (5) 発がんの根源的原因：毒性学にできること
豊國 伸哉
(名古屋大学大学院医学系研究科生体反応病理学)
 - (6) Regulatory role of CNC-bZIP protein NRF1 in metabolic homeostasis of glucose and lipid
Jingbo Pi
(China Medical University, China)
- 4) 教育講演
 - (1) 食品から摂取するカドミウムとヒ素のトキシコメタロミクス -細胞レベルでの輸送機構から米、土壌レベルの対策まで-
姫野 誠一郎
(徳島文理大学薬学部)

- (2) アジュバントによる免疫活性化のメカニズム－
免疫制御因子としてのデンジャーシグナル－
黒田 悦史
(大阪大学免疫学フロンティア研究センター ワクチン学研究室/
医薬基盤・健康・栄養研究所 アジュバント開発プロジェクト)
(日本免疫毒性学会合同企画)
- 5) シンポジウム (29 セッション)
- (1) インビトロ・インシリコ手法による全身毒性
予測評価の現状と課題
 - (2) カーボンナノチューブの「剛性」と発がん性
(アスベストとの比較)
 - (3) 日本中毒学会合同シンポジウム：低分子量ガ
ス体の基礎と臨床
 - (4) ケミカルエコロジーと毒性学
 - (5) 毒性解明に向けた薬物代謝・動態研究の融合
 - (6) 継世代影響広域企画：環境要因による多世代・
継世代影響 そのメカニズムと考察
 - (7) ストレスバイオロジーから分子毒性学への展開
 - (8) メタルトキシコロジーを牽引する最先端分析
法の現状と展望
 - (9) 医薬品開発における探索安全性評価の戦略に
ついて
 - (10) 抗酸化レドックスと活性イオウによる解毒代
謝機構の新展開
 - (11) エピジェネティクス機構を考慮したトキシコ
ゲノミクスの展開
 - (12) 非臨床安全性評価から臨床へのトランスレー
ショナル臨床化学
－副作用を回避する従来型検査法に加わる新
規バイオマーカーの有用性－
 - (13) 「時間毒性学」～古くて新しい毒性学～
 - (14) 大気汚染物質に関する健康影響評価研究の最
新動向：越境大気汚染から国内起源まで
 - (15) 環境汚染物質と免疫・アレルギー
～基礎免疫学、疫学、毒性学の視点から～
 - (16) 日本薬理学会合同シンポジウム：細胞内小器官
シグナルネットワークを介する臓器毒性制御
 - (17) 食品汚染と毒性影響：恒常性機能の攪乱によ
る毒性発現メカニズム
 - (18) SOT-JSOT Exchange Promotion Program
“Insights into mechanisms of drug-induced
liver injury”
 - (19) 企業研究者のキャリア形成支援プログラム
－トキシコロジストのキャリア形成－
 - (20) A new era : Exposome and toxicology
 - (21) 遺伝毒性発がん物質の「閾値」とリスク評価
 - (22) 子ども期への低用量化学物質ばく露が誘発す
る情動認知行動影響の定量的解析法の開発状
況と評価法確立への未来

- (23) 毒作用発現におけるエピジェネティック毒性
とその臨床展開
- (24) オートファジーによる細胞死の制御
- (25) 臨床フェーズ 1 試験の安全性を考える－
BIA10-2474 事件から何を学ぶか－
- (26) 応用トキシコロジー：トキシコロジストに求
められる新たなチャレンジ
- (27) 日本毒性病理学会合同シンポジウム：環境中
の微量元素の毒性学
- (28) 次世代研究者セミナー：人工知能や Big Data
で広がる創薬とトキシコロジー
- (29) 重金属の細胞毒性に対する新しい防御分子と
防御系

7. 一般演題

- 1) 一般演題は口演またはポスター発表とします。
口演の発表時間は8分、討論3分の11分です。
発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポス
ター発表は、毎日貼替えてポスター展示を行い、
途中で質疑応答時間(45分)を設けます。

◆ポスター発表 質疑・応答 (コアタイム)

7月10日(月) 16:45～17:30

7月11日(火) 16:30～17:15

7月12日(水) 13:15～14:00

ポスターは縦180cm、横90cm以下のサイズで
作成してください。

詳細は年会ホームページをご覧ください。

2) 優秀研究発表賞

応募者はポスター発表に加え、別会場で7月10
日(月)に口頭発表(4分)と質疑応答(1分)
を行っていただきます。発表データ(PowerPoint)
は、年会当日受付いたします。受賞者の発表は、
2017年7月12日(水)の朝に行い、授賞式は、
7月12日(水)13:30より年会会場で行います。
受賞者には、賞状と副賞を授与します。

8. 当日参加登録

当日参加の受付は、パシフィコ横浜 会議セン
ター 2F エントランス内の当日受付デスクで行っ
てください。

参加費 (当日受付)

※ 学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、
非会員の参加費と懇親会費は「課税(消費税込)」
となります。

会 員	14,000 円
学生会員	5,000 円
* 関連学会会員	15,000 円
非 会 員	17,000 円
<hr/>	
懇親会（一般）	12,000 円
懇親会（学生）	5,000 円

*は次の学会会員の方です。（順不同）

共催：日本中毒学会
 日本免疫毒性学会
 日本毒性病理学会
 日本薬理学会
 米国 SOT（Society of Toxicology）

協賛：日本薬学会
 日本獣医学会
 日本衛生学会
 日本薬物動態学会
 日本環境変異原学会
 日本実験動物学会
 日本製薬医学会
 日本産業衛生学会
 環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）
 日本医薬品情報学会

9. 懇親会

次の通り懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日時：2017年7月11日（火）午後6：00より
 会場：横浜ロイヤルパークホテル 3階「鳳翔」
 〒220-8173 神奈川県横浜市西区みなとみらい
 2-2-1-3

TEL：045-221-1111（代表）

URL：<http://www.yrph.com/>

10. 年会事務局

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学
 健康医科学イノベーション棟307

筑波大学医学医療系 環境生物学分野

事務局長：新開 泰弘

事務局次長：広瀬 玲子

事務局参与：藤原 泰之

（東京薬科大学 薬学部 公衆衛生学教室）

TEL：029-853-2394 FAX：029-853-3259

E-mail：secretariat@jsot2017.jp

社員総会開催のご案内と電磁的総会出欠（委任状）回答システムへのご登録のお願い

定款第4章に定められている「社員総会」を、以下の要領で学術年会期間中に開催いたします。

2014年の法人化に伴い、本学会の事業計画や予算案等の重要な事項は社員総会にて議決されますので、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

※本年4月にメールにてお知らせ致しましたとおり、ご出席・ご欠席に係わらず「出欠票（委任状）」を、「電磁的総会出欠（委任状）回答システム」により、**2017年6月9日（金）まで**にご提出下さい。提出方法は、下記、登録方法をご覧ください。

【電磁的総会出欠（委任状）回答システム 登録方法】

- 1) 下記 URL から、会員番号とパスワードを入力し、マイページにログインしてください。
<https://area31.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lftes8mjqct9/g7DahB/login.html>
- 2) マイページのトップに、電磁的総会出欠（委任状）回答ページへのナビメッセージが表示されています。
- 3) ナビメッセージをクリックすると、出欠回答入力ページへ遷移します。
- 4) 「出席する」または「出席しない」を選択してください。
- 5) 「出席しない」を選択した場合、委任状入力フォームが表示されます。
 必要事項を入力し、「送信」をクリックしてください。

記

2017年度 一般社団法人日本毒性学会 社員総会

日 時：2017年7月11日（火）13時00分から14時20分（予定）

場 所：パシフィコ横浜 会議センター メインホール（第1会場）

議 案：1. 2016年度事業報告および収支決算
 2. 2017年度事業計画および収支予算
 3. その他

以上

社員総会の決議には、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の「過半数」を有する社員の出席が必要です（定款第24条）。定足数に満たない場合は社員総会として成立しなくなり、事業計画等の重要な議決ができず、本学会の運営に大きな支障を来すこととなります。社員総会に欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状の提出をお勧めくださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

2017年6月

一般社団法人日本毒性学会

理事長 永沼 章
 総務委員会 委員長 務台 衛

合同セッションのご案内（第44回学術年会・本部企画）

連携小委員会より、合同セッションのご案内を申し上げます。

来る7月10日からの横浜での第44回学術年会では、5つの本部企画になるセッションが催されます。連携学会等からの非会員の先生方を多く交え、毒性学の裾野を広げる興味深い講演からなっております。ふるってご参加いただけると幸いです。

① 日本中毒学会合同シンポジウム【7月10日（月）9：30～ 第4会場】

低分子量ガス体の生体影響の基礎と臨床をつなぐ企画で、硫化水素中毒を福島県立医・伊関 憲，一酸化炭素中毒を山口大救急・藤田 基，イオウ呼吸を東北大・赤池孝章，硫化水素シグナルを国立精神神経・木村英雄，一酸化炭素受容体を慶応大医・末松 誠の先生方に講演いただく。これら基礎と臨床は密接にかかわり，例えば高気圧酸素療法の可否などにも関わる。

② 日本免疫毒性学会合同教育講演【7月10日（月）13：30～ 第2会場】

自然免疫の最近知見をもとに，シリカなどの粒子状物質やアラムなどのアジュバントの標的としてTLRsなどのPPRsやNLRsが明らかになりつつある。また，シグナル伝達経路の違いによって産生される炎症性サイトカインも変わってくる。阪大免疫・黒田悦史先生に自然免疫と免疫毒性の関係についてご講演をいただく。

③ 日本薬理学会合同シンポジウム【7月11日（火）14：30～ 第3会場】

細胞内小器官シグナルネットワークを介する臓器毒性制御と題し，化学物質によるオルガネラリモデリングが臓器毒性につながるという最新知見・技術を，小胞体ストレスと中枢を岡山大薬・上原 孝，ミトコンドリアと心疾患を岡崎統合バイオ・西田基宏，膜輸送と腎を阪大・三木裕明，新規バイオバーカーを名大農・内田浩二，幹細胞のオルガネラ毒性を国立衛研・諫田泰成の先生方に講演いただく。

④ SOT-JSOT 合同シンポジウム【7月11日（火）14：30～ 第5会場】

英語セッションとして“薬剤性肝障害メカニズムに対する洞察”をテーマに，肝毒性と特異体質をPMDA・池田敏彦，アセトアミノフェン肝毒性をU Kansas MC・Hartmut Jaescke，miRNAと免疫炎症を名大・横井 毅，薬剤-サイトカイン相互作用をMichigan SU・Patricia Ganeyの先生方に講演いただく。

⑤ 日本毒性病理学会合同シンポジウム【7月12日（水）14：00～ 第3会場】

環境中の微量元素の毒性学と題し，メチル水銀を理科大・鍛冶利幸，ヒ素を大阪市立大・鰐淵英機，カドミウムを愛知学院大・佐藤雅彦，鉛の疫学を東洋大・吉永 淳の先生方に講演いただく。

その他のお知らせ

第39回日本中毒学会総会・学術集会

会期 2017年6月30日(金)～7月1日(土)
 会場 つくば国際会議場
<http://www.epochal.or.jp>
 会長 水谷 太郎
 (日本中毒情報センター・筑西市医療監)
 テーマ 災害と中毒
 演題募集 2016年12月28日(水)～2017年3月10日(金)
 ウェブサイト http://jsct-web.umin.jp/39th_congress/

学会企画および関連研修コース(予定)

特別講演/教育講演

高橋 祥友(筑波大学災害精神医学)
 「災害時メンタルヘルス」(仮題)
 岡本 健(順天堂大学浦安病院救急診療科)
 「大規模災害とBCP」(仮題)
 奥村 徹(警視庁)
 「CBRNE対処入門」(仮題)

日本毒性学会連携合同セミナー/講演

パネルディスカッション

「集団発生中毒(仮題)」, 「急性二酸化炭素中毒」, 「中毒センターの役割」, 「中毒ER診療(仮題)」, 「隠れた母と子の中毒」, 「胃洗浄再考」

一般演題, ハンズオンセミナー, クリニカル・トキシコロジー認定/更新セミナーおよび認定試験, 共催セミナー, フォトコンテスト

MCLS CBRNE コース(2017年7月2日;筑波大学)

機器展示, 書籍販売, その他

第39回日本中毒学会総会・学術集会事務局

筑波大学医学医療系救急・集中治療医学
 事務局長:井上 貴昭

学術集会に関するお問合せ先

第39回日本中毒学会総会・学術集会 運営事務局
 株式会社日本旅行 ECP 営業部
 担当:宝徳奈津美, 久保 聡子
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19
 虎ノ門マリビル11階
 TEL:03-5402-6401
 FAX:03-3437-3944
 E-mail:jsct39@nta.co.jp

*本学術集会参加および発表は,各々,日本臨床救急医学会救急認定薬剤師認定の際,単位として加算されます。また,日本薬剤師研修センターおよび日本病院薬剤師の研修単位が交付されます。

第29回不斉に関する国際会議 [29th International Symposium on Chirality (Chirality 2017; ISCD-29)]

趣旨

本国際会議は,分子・分子集合体の「キラリティー(不斉)」に関する諸問題について,薬学・農学・医学・理学・工学などの立場を乗り越え,科学と技術の両面から講演・発表・討論することを目的としています。キラリティーは薬学,農学,医学,材料科学など,産業と密接に関係した分野と深く関わっており,産業界からの幅広い分野の方々の積極的な御参加をお願い申し上げます。

主催 第29回不斉に関する国際会議組織委員会

共催・協賛・後援

早稲田大学理工学術院先進理工学研究科・スーパーグローバル大学創成支援事業「ナノ・エネルギー拠点」,日本薬学会,日本化学会,日本農芸化学会,高分子学会,日本毒性学会,日本物理学会,有機合成化学協会,日本物理学会,日本薬物動態学会,応用物理学会 他

協力 独立行政法人国際観光振興機構

会期 7月9日(日)～7月12日(水)

会場 早稲田大学国際会議場(早稲田大学)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1丁目20-14
 電話 03-5286-1755

交通

都営バス「西早稲田」バス停から徒歩3分
 都営バス「早稲田」バス停から徒歩5分
 東京メトロ東西線「早稲田」駅から徒歩10分
 高田馬場駅(JR山手線,西武新宿線)から徒歩20分
 東京メトロ副都心線「西早稲田駅」から徒歩23分
 都電荒川線「早稲田駅」から徒歩5分

プログラム

基調講演 Jean-Pierre Sauvage (2016年ノーベル化学賞受賞) 詳細はホームページ(<http://chiralitytokyo2017.jp>)をご参照下さい。

参加要領

- 1) 定員 500人
- 2) 参加費
 (事前登録5月1日まで)
 一般 60,000円
 学生 30,000円
 (5月1日以降)
 一般 70,000円
 学生 35,000円
- 3) 懇親会費
 5,000円(7月11日), 若手懇親会 3,000円(7月10日)

4) 申込方法

ホームページ (<http://chiralitytokyo2017.jp>) の Registration からお申し込み下さい。参加費はクレジットカード (VISA, MasterCard, Diners Club, AMEX or JCB) でお支払いください。

5) 発表申込締切

4月3日 (口頭発表)
5月1日 (ポスター発表)

連絡先

事務局

組織委員長 高田十志和 (東京工業大学)
組織副委員長 朝日 透 (早稲田大学)
〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1
(メールボックス H-126)
東京工業大学 物質理工学院 応用化学系 内
電話: 03-5734-2898 ファックス: 03-5734-2888
E-mail: chiralitytokyo2017@polymer.titech.ac.jp

フォーラム 2017 : 衛生薬学・環境トキシコロジー

会議のテーマ 食の安全性を確保するために

主催機関 日本薬学会 (環境・衛生部会)

協賛および後援機関

日本毒性学会, 日本衛生学会, 日本環境変異原学会,
日本食品化学学会, 日本食品衛生学会 他

代表責任者

実行委員長 永田 清
(東北医科薬科大学薬学部 環境衛生学教室・教授)

会期 平成 29 年 9 月 1 日 (金), 2 日 (土)

会場 東北医科薬科大学
(宮城県仙台市青葉区小松島 4-4-1)

内容

特別講演: 佐藤 洋 先生 (食品安全委員会)
招待講演: 根岸 正彦 先生 (米国 NIEHS/NIH)
教育講演: 山添 康 先生 (食品安全委員会)
フォーラム I ~ VI の 6 討論課題
日韓次世代シンポジウム
一般演題 (口頭発表とポスター 合計 約 200 題)

登録期間

事前参加登録受付期間 5月1日 (月) ~ 7月20日 (木)
演題登録期間 5月1日 (月) ~ 6月2日 (金)
要旨登録期間 5月1日 (月) ~ 6月10日 (土)

参加予定数 約 400 名 (国内 370 名, 国外 30 名)

事務局

〒981-8558 仙台市青葉区小松島 4-4-1
東北医科薬科大学薬学部 環境衛生学教室内
「フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー」事務局
電話: 022-727-0134
FAX: 022-275-2013 (代)
E-mail: forum2017@tohoku-mpu.ac.jp
ホームページ: <http://www.senkyo.co.jp/eiseiforum2017>

第 24 回日本免疫毒性学会学術年会

年会長 中村和市 (北里大学)

日時 2017 年 9 月 4 日 (月), 5 日 (火)

会場 北里大学獣医学部 B 棟 1 階講義室

日本毒性学会員の参加費 (協賛学会員として)
8,000 円 (事前), 10,000 円 (当日)

ホームページ <http://jsit2017.jp/>

概要

メインテーマを「免疫亢進」と「免疫抑制」の新たな考え方」としました。近年, 新たな免疫担当細胞が同定, 定義され, 現象面の「免疫亢進」と「免疫抑制」をあらためて見直し, 妊娠における免疫寛容破綻の機序, 自己免疫発現の機序などに関して, これまでにない新たな視点で臨みます。

内容

特別講演 1

「特異体質性薬物肝障害の免疫学的機序」
横井 毅 (名古屋大学大学院)

特別講演 2

“Immunotoxicity Assessment of Biopharmaceuticals”
Danuta Herzyk (Merck Research Laboratories)

教育講演

「ウイルス感染が誘導する自己免疫疾患」
南谷武春 (医薬基盤・健康・栄養研究所)

シンポジウム

「生殖免疫毒性 - 妊娠の成立・維持のための免疫機構とその破綻 -」

前田洋佑 (北里大学), 亀谷美恵 (東海大学), 島 友子, 中島彰俊, 齋藤 滋 (富山大学), 白砂孔明 (東京農業大学)

試験法ワークショップ

「バイオ医薬品 (タンパク製剤) の安全性評価法の最新動向」

石井明子 (国立医薬品食品衛生研究所), 真木一茂 (医薬品医療機器総合機構), 久保千代美 (中外製薬株式会社), 間 哲生 (第一三共株式会社)

ランチョンセミナー

日本チャールス・リバー (株), (株) 新日本科学

市民公開講座 (2017年9月3日(日))
 「コメの安心と安全～カドミウムに関する調査から得られたこと～」
 講師：香山不二雄 (自治医科大学)

事務局

北里大学獣医学部毒性学研究室 鎌田 亮
 E-mail: secretariat@jsit2017.jp

第27回日本医療薬学会年会

メインテーマ

医療薬学が切り拓く薬剤師力の深化・醸成～医療人としてより輝くために～

会期 2017年11月3日(金・祝)～5日(日)

会場 幕張メッセ
 (〒261-8550 千葉県美浜区中瀬 2-1)
 アパホテル&リゾート東京ベイ幕張
 (〒261-0021 千葉県美浜区ひび野 2-3)
 ホテルニューオータニ幕張
 (〒261-0021 千葉県美浜区ひび野 2-120-3)

年会長

大森 栄
 (信州大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)

組織委員長

山折 大
 (信州大学医学部附属病院 准教授・副薬剤部長)

副組織委員長

青山 隆夫
 (東京理科大学薬学部 教授)
 石井伊都子
 (千葉大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長)
 望月 真弓
 (慶應義塾大学 薬学部教授・病院薬剤部長)

年会事務局

信州大学医学部附属病院 薬剤部
 〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

運営事務局

株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
 コンベンション 2 局内
 〒105-8335 東京都港区芝 3-23-1
 セレスティン芝三井ビルディング 13 階
 TEL : 03-5657-0610
 FAX : 050-3730-3977 (グリーン FAX)
 E-mail : 27jsphcs@jtbcom.co.jp

年会ホームページ

<http://convention.jtbcom.co.jp/27jsphcs/index.html>

プログラム (予定)

年会長講演, 平成 29 年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会 / 学術フォーラム, 特別講演, 教育講演, シンポジウム, 受賞講演, 一般演題 (口頭発表・ポスター発表), 共催セミナー, 併設医薬品・医療機器展示, 書籍展示, 市民公開講座, その他

一般演題募集のご案内

受付期間

2017年4月13日(木)～2017年6月6日(火) 11:00 (予定)
 一般演題 (口頭発表・ポスター) の申込みは, 本会ホームページ [一般演題募集] より, オンライン登録にて受け付けを致します。
 演題登録手順などの詳細は, 本会ホームページにて, 4月上旬にご案内致しますので, ご確認ください。

事前参加登録受付のご案内

受付期間

2017年4月13日(木)～2017年9月5日(火) (予定)
 事前参加登録の申込みは, 本会ホームページ [事前参加登録] より, オンライン登録にて受け付けを致します。
 参加登録費などの詳細は, 本会ホームページにて, 4月上旬にご案内致しますので, ご確認ください。

会期中の宿泊手配について

本会にご参加いただく皆様の会期中のご宿泊手配を株式会社 JTB コーポレートセールス法人営業横浜支店よりご案内致します。
 宿泊申込みは, 2017年4月13日(木) より, 開始する予定です。
 詳細は, 本会ホームページにて, 4月上旬頃にご案内致しますので, ご確認ください。

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

第4回理事会において本学会に部会を設けることが決定され、部会規程が承認されました。部会制度は、個々の毒性学研究分野において当該分野の充実と活性化を積極的に図ると共に非会員研究者との交流を促進することによって、毒性学研究全体の効率的な発展に寄与することを目的としています。

本号の冒頭で告知したように、第一号の部会として生体金属部会の設立が承認されました。部会に関する規程を次ページに掲載しますので、是非ご確認ください。

部会に関しては、学会ホームページ (<http://www.jsot.jp/bukai/index.html#bukai-kitei>) でもお知らせしています。

- 一般社団法人日本毒性学会 定款
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功勞会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

平成 29 年 1 月 30 日制定

1. 目的

一般社団法人日本毒性学会（以下、日本毒性学会）は、毒性学研究分野を細分化し、個々の研究分野の充実と活性化を図ると共に非会員研究者との交流を促進するために部会制度を設ける。本制度によって設けられた各部会は、当該部会が関連する研究分野において国内で最大かつ最も権威のある組織となることを目指し、それによって毒性学研究全体の効率的な発展に寄与することを目的とする。

2. 部会活動

- 1) 部会は全ての活動を日本毒性学会の名の下に行う。
- 2) 部会に直接関連する領域の研究促進、研究者間交流、若手研究者育成等に努める。
- 3) 部会規程を独自に定める。
- 4) 日本毒性学会の学術年会とは異なる時期に、部会の学術集会を毎年 1 回以上開催する。
- 5) ホームページを開設し、部会会員、関連研究分野研究者および一般者への情報提供に努める。
- 6) 必要に応じて、部会独自の賞を設けるなどして、優れた研究を行った研究者や部会に貢献した研究者を表彰する。

3. 学術集会

- 1) 各部会の主催とし、名称は一般社団法人日本毒性学会〇〇部会主催〇〇〇〇（研究会、フォーラム等）とする。
- 2) 日本毒性学会会員に限定することなく、部会の研究分野に関連する研究者に広く参加を呼びかける。参加費は日本毒性学会の会員、非会員を問わず同額とする。
- 3) 企画講演やシンポジウムのみならず研究者自身が応募できる一般講演を設け、会期は 2 日間以上とする。
- 4) 学術集会には日本毒性学会から年 1 回に限り 30 万円を援助する。なお、金額は学会運営状況に応じて変更されることがある。

4. 部会構成

- 1) 常任幹事
若干名の常任幹事を置く。
常任幹事は日本毒性学会評議委員の中から選出され、所掌する部会の運営に関して審議、立案し、建議を行う。
 - 2) 部会長
常任幹事の中から部会を代表する部会長 1 名を選出する。
 - 3) 学術集会実行委員長
学術集会の開催・運営の責任者として実行委員長を毎年 1 名選出する。実行委員長は日本毒性学会会員でなければならない。学術集会実行委員長は担当する学術集会終了後に収支決算報告書を速やかに提出する。
 - 4) 委員会等
必要に応じて委員会等を設置し、委員長および委員を任命する。なお、委員長および委員は日本毒性学会会員でなければならない。
 - 5) 役員等の選出
上記役員等の選出方法は、各部会の規程で定めることとする。なお常任幹事は、日本毒性学会定時社員総会において承認される必要がある。
 - 6) 役員等の任期
任期は定時社員総会の終結時から始まり、2 年間とする。諸事情により定時社員総会終結時以降に選出された場合は、選任後 2 年以内に終了する日本毒性学会事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。
- ## 5. 部会設立申請
- 1) 関連分野の研究を行っている日本毒性学会評議員 30 名以上を發起人として申請する。その際に、部会長および常任幹事候補者が決定している必要がある。
 - 2) 随時受け付ける。
 - 3) 所定の部会設立申請書に必要事項を記入して、日本毒性学会事務局へ電子メールにより申請する。
 - 4) 採否は総務委員会における審査を経て理事会で決定する。

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

昭和51年 4月 1日 制定
平成26年 7月 1日 最終改定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性に関する重要な知見や発現機構についての研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象などを掲載する。
- (3) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (4) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4ファイルに上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。
- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Resultsなどのサブタイトルは付けない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。

- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。 μm , mm, cm, m, μg , mg, g, kg, μL , mL, L, mmol, mol, μM , mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, $^{\circ}\text{C}$ 。
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合は筆頭著者のみを表示する[例, (Smith *et al.*, 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005): The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003): The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

- (10) Supplemental Data: 一部のデータ(Methodの詳細, 追加データ, DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など)をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁(表題ページ)に下記の中から該当するカテゴリー(5つ以内)を選んで, 関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線

B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児

C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬毒物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症

D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省などの公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft Word ファイルまたはPDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

9. Executive Editors

若干名のExecutive Editorをおく。Executive Editorの選考は編集委員会に設けられたExecutive Editor小委員会が行う。Executive Editorが責任著者になっている論文またはExecutive Editorが推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editorはこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる2名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦したExecutive Editorの氏名が記載される。

10. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^b （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4頁目からは16,000円／頁。 ^b：図等も含む。

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

平成 26 年 7 月 1 日制定

Fundamental Toxicological Sciences (略称:Fundam. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質, 天然物成分およびその他の化学物質が示す毒性や様々な指標に与える影響, さらに, それら物質の安全性評価や研究手法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌である。掲載論文は peer-review によって決定され, 原則として投稿から 2 週間以内に採用または却下の判定が下される。採用と判定され, かつ, 掲載料が支払われた論文を順次ウェブサイト公表する。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article : 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。
- (2) Letter : 公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report : 毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは 1 つの物質について 1 論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は 1 つの遺伝子について 1 論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたもので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview : 興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。

2. 原稿の構成

A4 判に上下左右に 2cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けた

ネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]. 著者が 3 名以上の場合には筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]. 引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

- Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.
- Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬毒物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)

に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/fts-scied/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft Word ファイルまたはPDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿ファイル（本文および図表）を提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
- (3) 別刷は原則として作製しない。ただし実費での作成は可能。

9. 掲載料

掲載料は、基本料（論文1報当たり）および当該論文に含まれる総単語数と図、表、引用文献のそれぞれの数に応じた金額とする（以下の表参照）。請求書は採用決定後に責任著者宛に送付する。掲載料の支払が確認された論文のみを掲載する。迅速に掲載するために、支払いは原則としてクレジットカードのみとする。期限までに支払いが行われない論文は「採用取り消し」とする。

論文種	掲載料（消費税別）				
	基本料 （円／論文）	単語 ^a （円／単語）	図 ^b （円／図）	表 ^b （円／表）	引用文献 ^b （円／文献）
Original Article	20,000	4	2,500	3,000	150
Letter	30,000	5	2,500	3,000	150
Toxicomics Report	30,000	6	2,500	3,000	150
Review	30,000	5	2,500	3,000	150
Minireview	40,000	5	2,500	3,000	150

^a 本文（Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion）、図表の説明、および引用文献の単語数の合計。^b 論文原稿に含まれる単語、図、表、引用文献の1個当たりの金額。カラーを含む図は追加料金なしで掲載。

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

平成 9 年 7 月 24 日 制定
平成 27 年 2 月 23 日 最終改定

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は、毒性学の進歩発展、安全性試験と安全性評価の信頼性向上に資する毒性学に精通したトキシコロジストを認定するために JSOT 認定トキシコロジスト制度を設ける。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会を設置する。認定試験小委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- 書類審査および認定試験は教育委員会が主催し、理事会の審議を経て、理事長が認定を行う。認定試験小委員会はこれらの実務を行う。
- 書類審査基準は次の通りとする。
 - 出願時に JSOT の会員であること。
 - 出願時に 6 年制大学卒業後 5 年以上、4 年制大学卒業後 7 年以上、短期大学卒業後 10 年以上、高等学校卒業後 12 年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等に関する疑義解釈は、教育委員会が行う。

(ハ) 別表の受験資格評点基準に従って、総合点が 80 点以上に達していること。

(ニ) 上記のうち、基準に満たない要件がある者についても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。

(4) 認定試験は原則として年 1 回実施し、筆記試験とする。

(5) 受験料は 3 万円とする。

(6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

(1) 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は 2 万円とする。

(2) JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後 5 年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. 名誉トキシコロジスト

別途細則に定める要件を満たした者を名誉トキシコロジストとして表彰する。

7. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 27 年 2 月 23 日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学術年会 毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	10 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
講習会等	基礎教育講習会 JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	40 / 回 5 / 回	

1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については 10 点、それ以外の共同発表の場合は 5 点とする。

2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

3) IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会

4) JSOT 生涯教育講習会等

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

平成 12 年 6 月 29 日 制定
平成 27 年 2 月 23 日 最終改定

1. 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
 2. 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
 3. 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - (1) 資格更新申請時において、過去 5 年間継続して JSOT 会員であること。
 - (2) 資格更新申請時において、過去 5 年間に以下に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - (3) 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加していなければならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する）。
 - (4) 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80%以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては 1 回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80%以上に達した場合には合格とする。
 4. 理事長は資格更新申請を受け、教育委員長に審査を委嘱する。審査の実務は認定試験小委員会が行う。
 5. 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員長を経て理事長に答申する。
 6. 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
 7. 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料を学会に納入する。
 8. 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
 9. 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
 10. 65 歳以上（該当年の 12 月 31 日現在）の時点で認定トキシコロジストの有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる。名誉トキシコロジスト表彰については別途細則にて定める。
 11. 本細則の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。
- 付則：平成 27 年 2 月 23 日改定の本細則は同日から施行する。

評 点 基 準

カテゴリー	評 点 項 目	評 点	上限 (5 年間)
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 学術年会 参加 / 発表 毒性学に関連する学会 ¹⁾ の学術年会 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 主催・公認講習会等 ²⁾ (講師を含む)	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

¹⁾ IUTOX 定期総会 (ICT), ASIATOX 定期総会, SOT 年会, EUROTOX 年会, 日本安全性薬理研究会, 日本衛生学会, 日本環境変異原学会, 日本産業衛生学会, 日本獣医学会, 日本実験動物学会, 日本製薬医学会, 日本先天異常学会, 日本中毒学会, 日本毒性病理学会, 日本内分泌攪乱化学物質学会, 日本免疫毒性学会, 日本薬学会, 日本薬物動態学会, 日本薬理学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・JSOT 生涯教育講習会等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

石川 栄世 今道 友則
池田 正之 加藤 隆一
井村 伸正 佐藤 哲男
高橋 道人 榎本 眞
菅野 盛夫 黒川 雄二
土井 邦雄 長尾 拓
吉田 武美

[功労会員]

高仲 正 前川 昭彦
安田 峯生 菊池 康基
今井 清 降矢 強
唐木 英明 飯家 公夫
牧 栄二 堀井 郁夫
上野 光一 三森 国敏

[賛助会員]

旭化成ファーマ(株)
あすか製薬(株)
アスピオファーマ(株)
エーザイ(株)
小野薬品工業(株)
協和発酵キリン(株)
㈱三和化学研究所
昭和電工株式会社
㈱新日本科学
第一三共(株)
大日本住友製薬(株)
武田薬品工業(株)
(一財)生物科学安全研究所
帝人ファーマ(株)
東レ(株)
日本新薬(株)
日本たばこ産業(株)
㈱ボゾリサーチセンター
持田製薬(株)

堀口 俊一 福田 英臣
白須 泰彦 黒岩 幸雄
林 裕造 渡辺 民朗
小野寺 威 遠藤 仁
鎌滝 哲也 赤堀 文昭
福島 昭治 津田 修治

佐藤 温重 上野 芳夫
田中 悟 大沢 基保
玄番 宗一 松澤 利明
暮部 勝 野村 護
大野 泰雄 山添 康

(五十音順)

味の素製薬(株)
アステラス製薬(株)
㈱イナリサーチ
㈱L S I メディエンス
杏林製薬(株)
興和(株)
塩野義製薬(株)
(公財)食品農医薬品安全性評価センター
ゼリア新薬工業(株)
大正製薬(株)
大鵬薬品工業(株)
田辺三菱製薬(株)
中外製薬(株)
㈱DIMS 医科学研究所
トーアエイヨー(株)
(一社)日本化学工業協会
ファイザー(株)
Meiji Seika ファルマ(株)
ライオン(株)

[役員] (2016～2017年度)

理事長 永沼 章
理事 天野 幸紀 石塚真由美 小川久美子
小椋 康光 小野寺博志 鍛冶 利幸
佐藤 雅彦 鈴木 睦 高崎 渉
中村 和市 広瀬 明彦 福井 英夫
眞鍋 淳 務台 衛 山田 久陽
横井 毅 吉田 緑 和久井 信

監事 落合 敏秋 姫野誠一郎

[学術年会長]

第44回 (2017年) 熊谷 嘉人
第45回 (2018年) 務台 衛

[委員会] (2016～2017年度)

- 総務委員会
- ◆連携小委員会
- ◆評議員選考小委員会
- ◆名誉会員および功労会員選考委員会
- 財務委員会
- 編集委員会
 - ◆JTS 編集委員会
 - ◆FTS 編集委員会
 - ◆Executive Editor 小委員会
 - ◆田邊賞選考小委員会
- 教育委員会
 - ◆生涯教育小委員会
 - ◆基礎講習会小委員会
 - ◆認定試験小委員会
- 学術広報委員会
 - ◆学会賞等選考小委員会
 - ◆特別賞等選考小委員会
 - ◆技術賞選考小委員会
 - ◆望月喜多司記念賞選考小委員会
 - ◆日化協 LRI 賞選考小委員会
 - ◆学術小委員会
 - ◆広報小委員会

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

務台 衛 (委員長)
鍛冶 利幸 菅野 純 熊谷 嘉人
佐藤 雅彦 中村 和市 永沼 章
広瀬 明彦 眞鍋 淳
菅野 純 (委員長)
中村 和市 広瀬 明彦 山田 久陽
横井 毅 (委員長)
小川久美子 小野寺博志 鈴木 睦
中村 和市 (委員長)
務台 衛 (委員非公開)
中村 和市 (委員長)
小川久美子 福井 英夫
鍛冶 利幸 (委員長)
鍛冶 利幸 (委員長)
永沼 章 (委員長)
永沼 章 (委員長)
矢本 敬 (委員長)
(副委員長以下非公開)
広瀬 明彦 (委員長)
鈴木 睦 高崎 渉 古川 賢
鈴木 睦 (委員長)
五十嵐勝秀 石塚真由美 於勢 佳子
姫野誠一郎 義澤 克彦
高崎 渉 (委員長)
小野寺博志 (副委員長)
朝倉 省二 桑原 正貴 橋本 清弘
古川 賢 和久井 信
古川 賢 (委員長)
(副委員長以下非公開)
佐藤 雅彦 (委員長)
吉田 武美 (委員長)
(委員非公開)
佐藤 雅彦 (委員長)
斎藤 幸一 (委員長)
(委員非公開)
佐藤 雅彦 (委員長)
熊谷 嘉人 (委員長)
(委員非公開)
天野 幸紀 (委員長)
石塚真由美 小椋 康光 高崎 渉
高橋 祐次 山田 久陽 吉成 浩一
久田 茂 (委員長)
小椋 康光 (副委員長)
伊藤 志保 橋本 愛

★その他関連の委員会

- IUTOX President 菅野 純
- ASIATOX 担当 熊谷 嘉人

2017年6月1日 印刷

2017年6月1日 発行

発行人 永沼 章

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

http://www.jsot.jp

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161